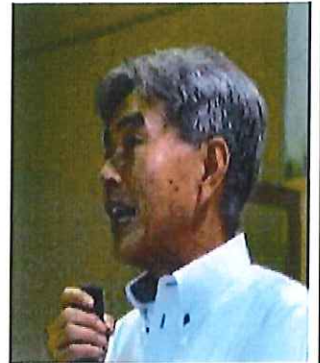


第23回自治労関東甲地 連青年女性夏期交流集会

1日目 ～開会集会～

大島 豪さん（労働者学習センター）



7月7日～9日の3日間、山梨県・山中湖村で開催されました。8都県の自治体で働く367名の仲間が集まり、自治労青年部・女性部運動の前進と組織の強化を目指して「学習と交流」に取り組みました。東京清掃青年部としても、12支部23名、本部5名、計28名の参加で今集会に取り組みました。初日の開会集会では、田村副実行委員長と山梨県本部服部副委員長から挨拶を受けた後、重黒木女性部長から基調提起がありました。今年起きた震災時の自治体対応について「我々自治体職員は、災害時でも安定した公共サービスの提供が求められる。常に安定した公共サービスを提供するためにも私たちの労働条件確保は重要であり、自身の働き方について考える必要がある」と述べました。また、今集会の意義として「**集会そのものだけでなく、集会の事前、事後の取り組みを通じて参加者が主体的に運動に関わり、問題の本質を考え仲間学ぶことが大事。**」と集会の在り方について話されました。

次に、労働者学習センターの大島さんから「労働時間について考える、働く者本位の改革を」をテーマに基調講演を受けました。講演の中では、電通の過労死自殺事件やヤマト運輸の不払い残業問題といった内容を通じ、安倍政権の推し進める「働き方改革」が、政・労・使の三者三様であることの説明がなされました。また「私たちの労働時間が1日8時間、週40時間となるまでには長い闘いの歴史があり、**年休は労働者の権利であると同時に、使用者の義務である。**」と述べました。

基調講演の後に文化交流が行われ、群馬県本部、茨城県本部、埼玉県本部、東京都本部が活動報告を行いました。東京都本部では平和を求めるフィールドワーク「ハンセン病差別と歴史」について学んだことを、集会参加者と共有しました。

2日目 ～職種別分散会～

2日目には「職種別分散会」が61分散会場で行われました。清掃部門では職場・生活実態について仲間と熱い討論を行いました。半数近くが今年採用された新しい仲間である中「今のままの賃金では、生活することで精一杯」「賃金が低いため能任試験を視野に入れざるを得ない」「低い賃金に合わせて節約するのが当たり前になってきたが、今集会のアンケートで自分の生活を見つめ直すことにより、無意識に我慢していることに気付けた」と。現在の厳しい情勢の中で、何を守り何を残していくのかが重要」等の意見が寄せられました。また「安全作業を徹底したいのに先輩職員の理解を得られず走り作業を行っている」「人員削減や委託化などを理由に業務量が増えている」「退職間際の職員と青年層とで意識の違いがある」などの不満の声が上がりました。自らの問題に対して無関心である仲間が多いことを議論する中で「よりよい職場にするためには職員一人ひとりの意識改革が必要であり、日頃から問題意識をしっかりと持ち、意思統一していくことが大事である」といった意見が出され、**自らが主体的に闘いを担っていくという意識が広められたことは大きな成果です。**また、これからの青年部組織についても活発に議論することによって交流を深め、闘う仲間づくりができました。

☆今の職場の**問題点**を話し合
い、どうすれば**改善**できるのか
熱い討論をしている真つ最中！



我らの高木青年部長が座長を務める分散会の様子↑↑

しっかり学んだ後は
もちろん・・・
しっかり交流！

交流会の様子⇒



3日目 〳閉会集会〵

3日目は東京都本部市川組織局部長から「地域公共サービスを支える産別自治労運動」の特別講演を受けました。その中で現業職は、15年に及ぶ新規採用停止の影響を受けており、正規職員の採用がない中、臨時非常勤職員の活躍も限界になり民間委託しなければ現場の維持が困難になっている現状を述べました。これを通じて、各地で民間委託化が進んでいる東京都も例外ではなく、**自分たちの仕事の必要性やあり方をもっと訴えていく必要があることを再認識しました。**

その後、全体集約・決議文の採択・閉会宣言が行われ、最後に主催者を代表して山梨県本部の田村副実行委員長の団結がんばろうで閉会しました。



市川 正人 さん
自治労東京都本部組織局部長
地域福祉ユニオン東京書記長